

暮らしの瓦版

2009年7月号

「木造組工法の家」の魅力(10)



【木造住宅は疲れにくい!?】
最近、「何となくだるい、疲れた」という言葉を口にしてる事はありませんか？その原因は働き過ぎ？運動不足？いろいろな要因が複合していることとは思いますが、もしかしたら、生活環境に木があると、そんな口癖が減るかもしれません。以前に行われたあるアンケート調査結果から、学校で一日の大半を過ごす子どもたちや教師が、コンクリートの校舎よりも木造校舎の方が疲労感が少ないということが分かったことを紹介しましょう。

まずは、子どもの「眠気」「だるさ」及び「注意散漫」について、いずれの症状も木造校舎の方が低い値が出ています。同じく、教師の蓄積疲労の状況のアンケート結果を見ると、気力の減退や不安兆候など、精神的な疲れが木造校舎の方が少ないという結果が出ています。子どもにとっても、教師にとっても木造校舎の方がストレスが少ないことがわかります。次に、欠席状況の様子を見てみましょう。病欠欠席者数、不登校児童数、学級閉鎖数共に、木造校舎の方が少ないという結果が出ています。最後に、保健室の利用についてのアンケートがあります。保健室に行く理由を、頭痛や腹痛、怪我などによる利用と、相談事の利用、「具体的な理由はないが教室にいたくないので保健室に来てしまおう」というあいまいな理由の3つの状況に分け、木造校舎とコンクリートの校舎との利用頻度に違いがあるのかを調査しました。頭痛や腹痛、怪我などによる利用は、コンクリートの校舎よりも木造校舎の方の利用割合が低いという結果が出ています。また、相談事やあいまいな理由による利用は、両校舎共に利用率は低いのですが、コンクリートの校舎では、利用率0%という学校は少ないことが分かり、木造校舎の場合、約半数の学校で利用者はないという結果も出ています。

このように近年、精神的、感覚的な快適感と、校舎の種類には何らかの関連性があるのではないかと注目され始めています。事実、このアンケート結果からは、木造校舎の方が精神的、感覚的な快適感において、軍配が上がっています。同じ調査で、コンクリート校舎の内装に木を多用した時の調査を行いました。その場合も、コンクリートの校舎よりはストレスが軽減されるという結果が出ています。

まだまだ、原因は明らかにされていないので断言はできませんが、木には不思議な癒しの力が備わっているのかもしれないですね。

季節の行事

土用とは中国の五行思想に基づく季節の分類の1つで、各季節が終る約18日間のこと。五行思想では全ての事柄を木火土金水に分類し、季節では春に木、夏に火、秋に金、冬に水をあて、残った土を季節の変わり目にあてました。土用の期間は土の気が盛んになる時期で、土を犯す行為はしてはならない禁忌がありました。土用は年に4回ありますが、「土用の入り」「土用の虫干し」「土用波」「土用の虫干し」など夏土用をいうことが多いようです。

生活 季節の行事

「京都祇園祭・天神祭・博多祇園山笠」

7月は各地で夏祭りが開催されます。その中で大きな祭を3つ紹介。日本ならではの祭を堪能してほしいかがでしようか。

【京都祇園祭 1日】 祇園祭は八坂神社の祭礼で、日本三大祭のひとつ。その歴史の長いこと、またその豪華さ、祭事が1ヶ月にわたる大規模なものであることで広く知られています。およそ1100年前、神泉苑に日本全国の数の鉢66本を立て、祇園の神を祀り災厄の除去を祈る祇園御霊会を行ったのが始まりと伝えられています。祭のハイライトは17日に行われる32基の山鉾巡行。これらの山鉾のうち29基は重要有形民俗文化財に指定されています。巡行は午前9時、四条烏丸から長刀鉾を先頭に河原町通を経て御池通へ向います。途中「注連縄切り」「くじ改め」や豪快な辻廻しなどで見せ場を作り、豪華絢爛な一大パレードが繰り広げられます。

【大阪天満宮・天神祭 24・25日】 天満宮御鎮座の翌々年、95年に社頭の浜から神鉾を流し、流れついた浜に齋場を設け「みそぎ」を行いました。その折、神領民や崇敬者が船を仕立てて奉迎したのが天神祭の始まりとされ、千年の歴史を誇っています。それ以来、船の数も増え、豊臣秀吉が大坂城を築いた頃には船渡御の形が整ってききました。天下の台所と呼ばれた元禄時代(17世紀後半)以降、天神祭は浪浪の繁栄のシンボルとして隆盛を味わいました。幕末の政変や二度の世界大戦で中断があったものの、昭和24年に船渡御が復活。存続が危ぶまれた時期もありましたが、その度、困難を打開し伝統を守り、盛り上げたのは浪浪っ子の土性骨と心意気でした。天神祭は今も、そうした人々の熱いエネルギーに支えられ、発展しています。

【博多祇園山笠 1日】 福岡博多の街に夏を告げる博多祇園山笠。760余年の伝統を誇る博多祇園山笠は、博多の総鎮守・櫛田神社の奉納神事であり、国の重要無形民俗文化財でもあります。7月1日に、福岡市内のあちこちに豪華な飾り山(静の山笠)が公開されると、街は山笠一色に染まり、静と動が見事に競演する15日間が始まります。締め込み姿の昇き手の男集に、威勢よく勢い水がかげられ、重量1トンもの昇き山を勇ましく掛け声と供に昇き、後方から勢いよく山を押し博多の街を走り抜ける昇き山は緊張感とスピード感にあふれます(動の山笠)。7月15日午前4時59分の「追い山」で、クライマックスを向かえ、博多の街は熱狂のつぼと化します。「山のぼせ」での男たちの鼓動と熱い魂は、見る人すべてに感動を与えます。

生活 季節の行事

「富士山開き/7月1日」

日本一の山富士山。山梨、静岡の両県にまたがる標高3776M、特別名勝、日本百名山のひとつです。円錐形のその姿は、世界的にもその美しさが評価されています。古来より霊峰とされ、平安末期の1149年、山頂に一切経を埋納した富士上人と称された末代が富士山を開いたと伝えられ、1800年まで女人禁制でした。登山道は山梨側に3口、静岡側に3口で全6コース。標高3000Mには中腹を一周する「お中道」、2150Mに眺望の開けた「奥庭」、2340Mにシヤクナゲ街道ともいわれる「御庭」があります。

現在の富士山の形は、小御岳火山、古富士火山、新富士火山の3世代にわたる火山活動によって形成されました。小御岳火山は今から10万年以上前活動が停止したと考えられ、古富士火山は、現在の富士山の土台となった火山で、約10万年前から1万年前にかけて活動したとされています。現在の富士山を形作った新富士火山の活動は、約1万年前に始まったとされ、1万年程の間に100回を超す噴火を繰り返したと考えられます。1707年の「宝永の噴火」が最大かつ最後の噴火であったとされています。

富士山の名前の書き方は古代からいろいろな表現がされています。ごく一般的なのが「不二山」。他に比べようがない唯一無二の高峰という意味です。「不尺山」。山の頂に年中、雪が絶えないという意味ですが、夏の富士山には冠雪はありません。余りの大きさを「尺きることなき」と表現したのかもかもしれません。その他に「福寿山」がなまったという説、「富士山」からきたという説などもあります。「富士山」という今日の書き方は、土に富む山という意味で、武士道が発達する鎌倉時代以降のものと考えられます。名称の由来については、「アイヌ語の「フンチ」(火の神火山)、マレー語「フジ」(すばらしい)などからきたという説があります。

毎年7月1日(8月28日前後)までが富士山の開山期間。きちんとした計画、装備で無理をしなければ、子供から年配の方まで登れます。山開き期間は実際には、残雪の状態や8月末または9月最初の土・日曜日の日付などにより毎年変更され、登山ルートによって異なることもあります。登山道からの富士山は、遠方から見上げる富士とは異なる姿があり、火山灰と溶岩の荒れ果てた世界が広がります。また頂上から眺める「こ来光」の神秘的な輝きは登山者を魅了し続けています。登らないとわからない崇高な世界に一度は挑戦してみたいものです。

他山の石

「2009年/世界天文年」



2009年はイタリアの科学者ガリレオ・ガリレイが初めて望遠鏡を夜空に向け、宇宙への扉を開いた1609年から400年の節目の年であり、国際連合、ユネスコ(国連教育科学文化機関)、国際天文学連合は、この2009年を「世界天文年」と決めました。ガリレオが「望遠鏡というもの」を作り、それで宇宙を眺めたのは1609年末。今から見ればおもしろいような口径4cmの望遠鏡で見たものは、驚きに次ぐ驚きでした。水晶の球といわれていた月には、円いクレーターがたくさんある地球と同じような天体であり、不思議な「天の大河」だった天の川は、無数の星の集まりだったのです。それから400年。世界中の人々が夜空を見上げ、宇宙の中の地球や人間の存在に思いを馳せ、自分なりの発見をしようというのを目的にこの世界天文年が制定され、国際天文学連合(IAU)が中心となり、天文学と科学に関する行事を世界中で展開します。

また今年7月22日、日本を含むアジア・太平洋地域で日食が起こります。日本では、全国で部分日食が見られ、太陽が月に隠されていく様子を見ることが出来ます。更に奄美大島北部、トカラ列島、屋久島、北硫黄島、硫黄島やそれらの周辺海域などでは皆既日食を見ることが出来ます。日本の陸地で皆既日食が見られるのは、1963年7月21日、北海道の皆既日食以来46年ぶりとなります。今回の日食は、場所によっては皆既の始めから終わりまでの時間が最長6分44秒と、21世紀に起こる皆既日食としては最も長く、皆既が起こる時の太陽高度も高いことから、21世紀最高条件の皆既日食といえるものであり、日本を含む国と地域に大きな注目が集まっています。

7月21日は、1969年アメリカが打ち上げたアポロ11号で人類が初めて月面に降り立った月面着陸の日でもあります。日本人飛行士若田光一さんが乗り込んだ米スペースシャトル「ディスカバリー」は約3か月、国際宇宙ステーション(ISS)に滞在し、科学実験などをこなしています。世界天文年の今年、「人類と宇宙」にとって節目となる重要な年になることでしょう。

キタ (V) !!モト

修繕 リフォームから新築工事の建物の事
優良土地活用から物件探索の土地の事

北本建設株式会社

埼玉県北本市古市場3-131 TEL: 048-591-1234

URL: http://kitamoto.net/kitaken/ FAX: 048-591-0019



■暮らしのカレンダー7月 ■文月、女郎花月、建申月、親月、七日月、桐月、七夜月、文波月、蘭月、涼月

2日 半夏生 7日 小暑/七夕 20日 海の日/月面着陸の日
4日 米国独立記念日 19日 夏土用 23日 大暑/ふみの日

【7月】日本では、7月を文月とよんでいます。文月の由来は、7月7日の七夕に詩歌を献じたり、書物を夜風に曝す風習があるからというのが定説ですが、七夕の行事は奈良時代に中国から伝わったもので、元々日本にはないもの。稲の穂が含む月であることから「含み月」「穂含み月」の意であるとする説もあります。英語 July は、ユリウス暦を創った共和政ローマ末期の政治家、ユリウス・カエサルにちなむといわれています。